

(別記)

せたな町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水稻を主力としつつ、酪農畜産や畑作物・野菜・施設園芸作物等との複合により、営農生産活動を行っているが、昨今の主食用米の需要が減少する中で、更なる産地の確立を行っていくために、米の品質向上を図り、水張面積の確保に向けたより一層の取組の強化を図っていく必要がある。

しかしながら、今後も農家経営主の高齢化や後継者不足により、農家戸数の減少が見込まれ、農家個々の現状に見合った安定した農産物の生産を図るため、農地利用集積・経営内容の転換も含め、地域全体として協議し取り進めることが重要となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

消費者や需要者ニーズに応える高品質・良食味の「売れる米づくり」「選ばれる産地づくり」を理念に、低タンパク米生産・農薬節減米等のクリーン農業による更なる収量・品質等のレベルアップに向けて技術を励行し、生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、水田水張面積拡大・維持のため、産地交付金を活用した推進を図りながら、防除回数の減や直播面積の拡大等のコスト削減を図りながら畜種農家との連携を推進し地域循環型の農業を目指す。

イ 新市場開拓用米

主食用米の需要の減少が続く中、需要に応じた生産は極めて重要であり、主食用米から新市場開拓用米への転換を緊急的に図る必要があることから、水田水張面積拡大・維持のため、産地交付金を活用した推進を図る。

ウ 加工用米

主食用米の需要減が見込まれる中、水田水張面積拡大・維持のため、産地交付金を活用した推進を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

現行、実転作の約28%の割合が麦・大豆であるが、水田水張面積拡大・維持の中、作付面積の減少等が懸念されるため、産地交付金を活用し作付面積の維持を図る。また、当地域は、酪農・畜産の農家も多く粗飼料の安定した生産が必要とされるため、飼料作物に対しても産地交付金を活用し作付面積の維持を図る。

(4) そば、なたね

現行、実転作の約10%の割合がそばであり、地域需要に則した生産を行いながら産地交付金を活用し、作付面積の維持を図る。

(5) 高収益作物（野菜等）

現行、実転作の約8%の割合が野菜であるが、ほうれん草やブロッコリー等様々な野菜が栽培されている中、農業者の高齢化、後継者不足の農業者には、土地利用型作物から施設野菜等の高収益な園芸作物へ転換も視野に入れながら、地域での土地の有効利用を検討する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成29年度の作付面積 (ha)	平成30年度の作付予定面積 (ha)	平成32年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,142.5	1,156.5	1,156.5
飼料用米	52.9	20.7	20.0
新市場開拓用米	0	10.0	30.0
加工用米	316.1	317.0	300.0
麦	51.0	30.1	40.0
大豆	199.8	197.0	220.0
飼料作物	383.4	480.0	490.0
そば	112.3	114.8	129.0
てん菜	0	2.0	3.0
その他地域振興作物	154.7	118.0	130.0
野菜	32.9	31.0	32.0
馬鈴薯	37.9	30.0	33.0
花き	1.2	1.7	2.0
小豆	4.3	6.5	8.0
菜豆	0.3	0.3	0.3
地力増進作物	54.4	34.7	-
景観形成作物	23.7	0.0	0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				(現状値)	(目標値)
1	【北檜山地区】 加工用米・飼料用米・新市場開拓用米	非主食用米助成	作付拡大	29年度 311.3	32年度 320.0
2	【北檜山地区】 麦・大豆	戦略作物加算	作付拡大 単収	29年度 134.2 29年度 100%	32年度 135.0 32年度 103%
3	【北檜山地区】 ほうれん草・スナップエンドウ	戦略作物加算	作付拡大	29年度 4.7	32年度 5.2
4	【北檜山地区】 飼料用米	稲わら利用助成 (耕畜連携)	耕畜連携取組面積 飼料費削減	29年度 49.1 29年度 100%	32年度 51.0 32年度 98.5%
5	【若松・大成地区】 加工用米・飼料用米・新市場開拓用米	非主食用米助成	作付拡大	29年度 44.8	32年度 50.0

6	【若松・大成地区】 麦・大豆	戦略作物加算	作付拡大 単収	29年度 29年度	111.8 100%	32年度 32年度	120.0 103%
7	【若松・大成地区】 野菜・花き・馬鈴薯 (施設栽培のみ)	戦略作物加算	作付拡大	29年度	3.5	32年度	4.5
8	【若松・大成地区】 そば	戦略作物加算	作付拡大 単収	29年度 29年度	88.8 100%	32年度 32年度	95.0 103%
9	【若松・大成地区】 飼料用米	稲わら利用助成 (耕畜連携)	耕畜連携取組面積 飼料費削減	29年度 29年度	0.6 100%	32年度 32年度	3.0 98.5%
10	【瀬棚地区】 加工用米・飼料用米・新市 場開拓用米	非主食用米助成	作付拡大	29年度	12.9	32年度	14.0
11	【瀬棚地区】 大豆	戦略作物加算	作付拡大 単収	29年度 29年度	4.8 100%	32年度 32年度	5.2 103%
12	【瀬棚地区】 飼料作物	水田放牧助成 (耕畜連携)	耕畜連携取組面積 飼料費削減	29年度 29年度	11.6 100%	32年度 32年度	15.0 98.5%
13	【北檜山地区】 地力増進作物	基幹作物助成	取組面積	29年度	46.2	30年度	28.7
14	【北檜山地区】 野菜・馬鈴薯・小豆・花卉	基幹作物助成	作付拡大	29年度	42.4	32年度	55.0
15	【北檜山区】 そば	基幹作物助成	作付拡大 単収	29年度 29年度	20.4 100%	32年度 32年度	30.0 103%
16	【北檜山地区】 飼料作物・そば・野菜・馬鈴薯 てん菜・小豆・菜豆類・花卉	生産性向上加算	作付拡大 単収	29年度 29年度	251.6 100%	32年度 32年度	270.0 103%
17	【若松・大成地区】 地力増進作物	基幹作物助成	取組面積	29年度	8.2	30年度	5.0
18	【若松・大成地区】 野菜	基幹作物助成	作付拡大	29年度	5.4	32年度	8.0
19	【若松・大成地区】 その他野菜	基幹作物助成	作付拡大	29年度	0.4	32年度	0.8
20	【若松・大成地区】 馬鈴薯・かぼちゃ・てん菜	基幹作物助成	作付拡大 単収(てん菜のみ)	29年度 29年度	20.6 100%	32年度 32年度	23.0 103%
21	【若松・大成地区】 小豆	基幹作物助成	作付拡大	29年度	0.0	32年度	2.0
22	【若松・大成地区】 飼料作物(デントコーン)	基幹作物助成	作付拡大 単収	29年度 29年度	9.8 100%	32年度 32年度	11.0 103%
23	【若松・大成地区】 麦・大豆・飼料作物・そば・てん菜 馬鈴薯・小豆・菜豆類・野菜・花卉	生産性向上加算	作付拡大 単収	29年度 29年度	332.0 100%	32年度 32年度	340.0 103%
24	【瀬棚地区】 地力増進作物	基幹作物助成	取組面積	29年度	0.0	30年度	1.0
25	【瀬棚地区】 野菜・馬鈴薯	基幹作物助成	作付拡大	29年度	0.1	32年度	0.5

26	【瀬棚地区】 飼料作物(牧草)	基幹作物助成	作付拡大 単収	29年度 29年度	68.6 100%	32年度 32年度	76.0 103%
27	【瀬棚地区】 飼料作物(デントコーン)	基幹作物助成	作付拡大 単収	29年度 29年度	12.4 100%	32年度 32年度	12.7 103%
28	【瀬棚地区】 そば	基幹作物助成	作付拡大 単収	29年度 29年度	3.0 100%	32年度 32年度	4.0 103%
29	【瀬棚地区】 大豆・飼料作物・そば・馬鈴薯・小豆・野菜	生産性向上加算	作付拡大 単収	29年度 29年度	89.0 100%	32年度 32年度	95.0 103%
30	【瀬棚地区】 飼料作物(飼料用米・WCS用稲を除く)	飼料作物団地化加算	作付拡大 労働時間の縮減	29年度 29年度	33.0 100%	32年度 32年度	36.5 94.0%
31	【北檜山地区】 そば	基幹作物助成 【追加配分】	作付拡大	29年度	20.4	32年度	30.0
32	【若松・大成地区】 そば	戦略作物加算 【追加配分】	作付拡大	29年度	88.8	32年度	95.0
33	【瀬棚地区】 そば	基幹作物助成 【追加配分】	作付拡大	29年度	3.0	32年度	4.0
34	【北檜山地区】 新市場開拓用米	新市場開拓用米 取組拡大助成 【追加配分】	取組面積	29年度	0	32年度	100.0
35	【若松・大成地区】 新市場開拓用米	新市場開拓用米 取組拡大助成 【追加配分】	取組面積	29年度	0	32年度	20.0
36	【瀬棚地区】 新市場開拓用米	新市場開拓用米 取組拡大助成 【追加配分】	取組面積	29年度	0	32年度	5.0

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり